

☆これから必要になる力とは

6 月下旬に「総合的な探究の時間オリエンテーション」を実施しました。本校で探究の時間を担当している田中崇志先生より、「なぜ探究の時間なのか」や「探究の時間でどんな力をつけるのか」、「今後どのように探究活動をするのか」といった内容について説明がありました。今号は「なぜ探究の時間なのか」についてもう少し掘り下げてお話しします。

・AI の普及

（オックスフォード大の研究によると AI の普及により 10 年後は 47% の職業がなくなる？）

（2011 年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの 65% は今ない職業に就く？）

・少子高齢化の問題点

（労働力の減少、経済力縮小、税收減によって社会全体が縮小される？）

（外国人労働者が増え、60 歳定年が 65 歳になる？ ゆくゆくは 70 歳になる？）

・ダイバーシティ

（性別や人種の違いに限らず、年齢、性格、学歴、価値観などの多様性を受け入れ、広く人材を活用することで生産性を高めようとする企業が増えてくる？）

オリエンテーションでは、左記にある話などがありました。つまり、“今後めまぐるしく変化するだろう社会” に対応するために「探究の時間」で様々な力をつけてほしいという内容でしたね。

私達は今、様々な情報を容易に入手することができるようになり、今までより簡単に 10 年後 20 年後について思いを巡らせることができるようになりました。ここで大切なのは、そんな未来に向かって自分がどう進んでいくべきかを考えることです。考え続け、その答えを「創造」していく力が今後必要になってきます。探究の時間で、その考え方のヒントをつかんでいきましょう。

ここで、視点をちょっと変えてみると、そもそもそのような力は「探究の時間」だけで培っていくものなのかという疑問が生じてきます。平成 28 年 12 月の中央教育審議会（文部科学大臣の諮問に依拠して、教育や文化に関する重要施策について調査する機関：以下中教審）では、高等学校で学ぶすべての教科に対し、以下のような意見を述べています。

- ・各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方が「見方・考え方」であり、各教科等の学習の中だけでなく、大人になって生活していくに当たっても重要な働きをするものとなる。
- ・「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力と人間性」の三つを各教科等の学習の中で身につけていく。その三つが「見方・考え方」を支えるものとなる。
- ・この三つを発揮させることで、物事を捉える視点や考え方も豊かで確かなものになっていく。

中教審では、各教科における「学び」の中で、知識や技能の習得はもちろん大事だが、“よく考え（思考力）、自ら決断し（判断力）、それらを他に伝える力（表現力）をつけ、さらには人間性も高めてほしい”。そして、その中で、“大人になってから必要となる「見方や考え方」を養っていくことが大切だ”と言っています。つまり、中教審は、ただ学力を向上すれば良いと言っているわけではなく、今後めまぐるしく変化する社会に対応できるように、高校の各教科（授業）の中で「人間力」を磨いてほしいと願っているのです。探究の時間の目的と重なる部分がありますね。このような考えをもとに、令和 3 年 1 月から「大学入試共通テスト」の導入などの入試改革が始まったのだと思います。

中教審の意見は理想かもしれませんが、しかし、すべての学びにおいて、受験のためだけではなく、大人になったときの自分のために学んでいくという姿勢も、大切にしてほしいと思っています。